

2023 年のアユの遡上状況

例年よりも遡上尾数は「少なめ」、遡上魚の体サイズは「大型」と推定

常盤川(図1)における投網1回あたりのアユの採捕尾数が多い年は、米代川水系だけではなく、雄物川、子吉川水系などでも遡上量が多いことが明らかになっています。

2023年の常盤川における4月下旬～6月中旬(4月25日～6月12日)までの投網1回あたりの採捕尾数は0.3尾/回であり、2010年の調査開始以降3番目に少ない状況でした(図2)。

調査地点が友釣り漁場内に位置する阿仁川の米内沢頭首工(図1)では、アユの初確認日は例年(6月12日:2010～2022年までの月日の平均値)よりも3日遅い、6月15日であったものの、遡上魚の平均全長は16.3cmであり、過去3番目に大きい状況でした(図3)。

これまでの調査結果から、遡上量の少ない年には遡上後の成長速度が速くなる傾向があるため、好天が続けば例年よりもアユの体サイズが大きいが予想されます。

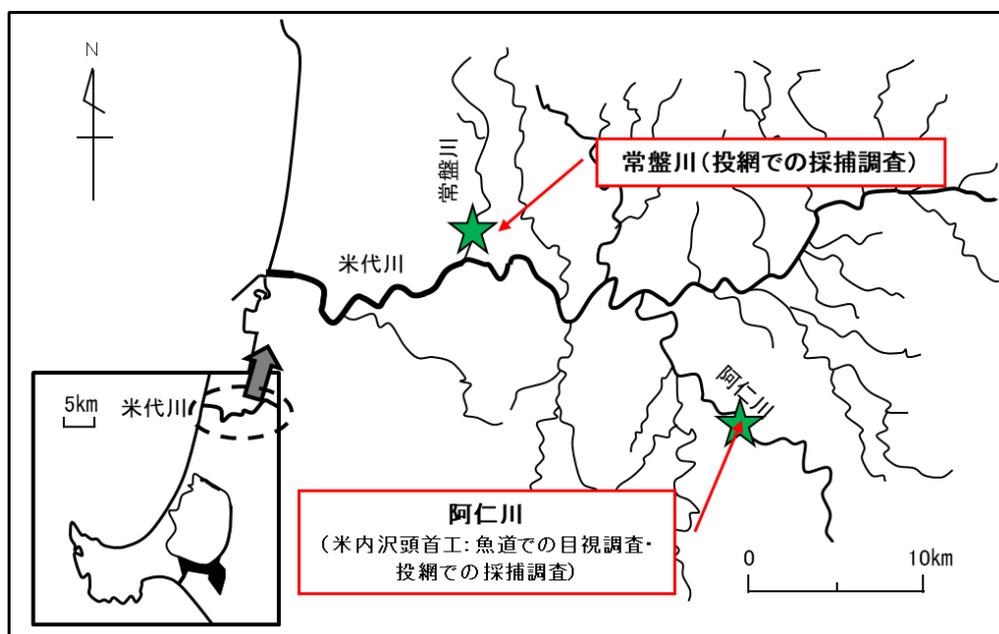


図1 調査河川

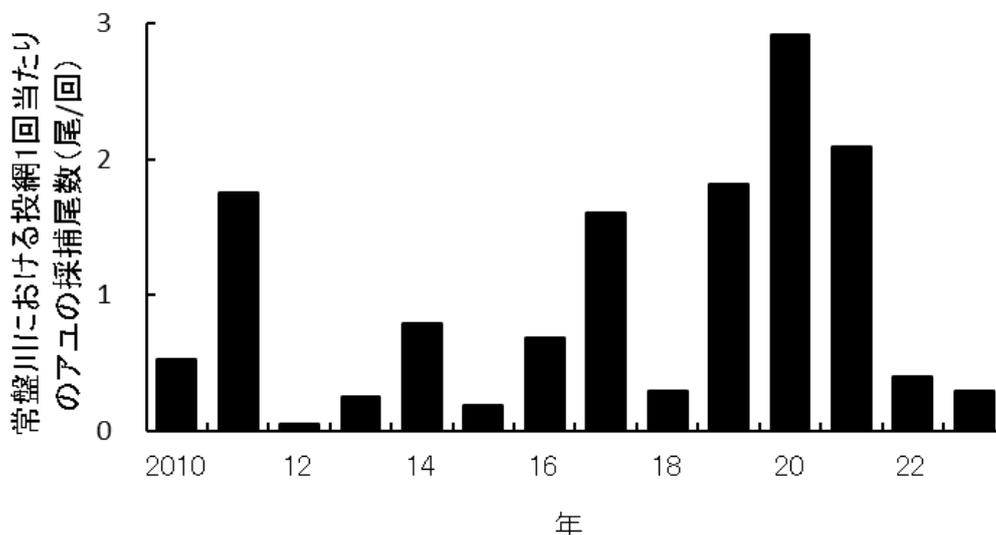


図2 常盤川におけるアユの採捕尾数

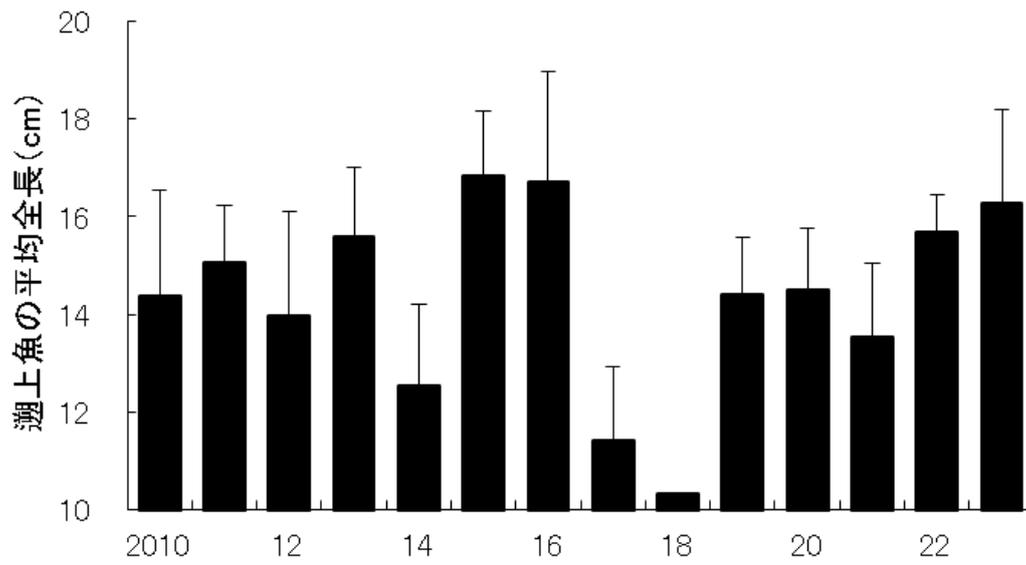


図3 阿仁川米内沢頭首工を遡上したアユの平均全長
 [棒グラフ上の縦線は標準偏差（データのばらつき）を示す]